

あいであ & アイデア

自作転圧ローラーで飼料作物の発芽向上

長崎県北部農業共済組合 宮副 浩幸

畜産経営を営む中で、飼料作りは欠かせないものです。親牛・子牛と成長段階で献立を変える必要がありますが、いかに良質な飼料を、かつ必要とする量を確保できるかがポイントになります。今回は、低コストで転圧ローラーを製作し飼料作りに役立てている事例を紹介します。

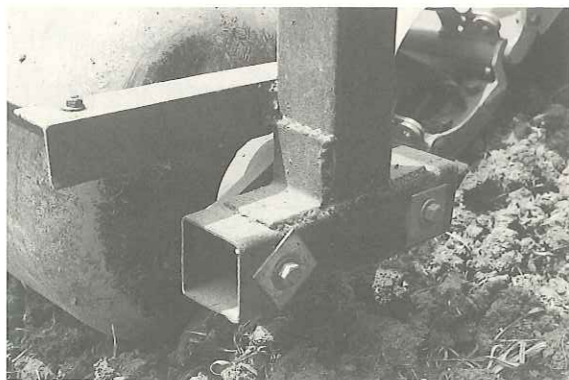


自作転圧ローラーを装着したトラクター

製作ポイント

転圧ローラーは、種をまいた後に発芽、生育を促進するために使用するもので、市販の機械を買えば10万円ほどかかります。ここでは、鉄骨廃材などを利用し約1万円で製作しました。

まず、ローラーがきれいにゆがみなく回るよう芯をとるのが必要です。廃材の丸い鉄材を立てにし、大工の要領で糸を三本張り中心をとります。ベアリングだけは新品を使用（価格



は2ヵ所で9000円程度)し、ローラーの芯に取り付けます。次にフレームですが、廃材となったハウス用の角材を譲り受け、ロータリーより少し大きめの長さで切り溶接します。泥落とし用にL字の廃材も利用しました。

また、ロータリー部分にワンタッチで取り付けられるよう、古い耕うん機のピンを2本使いました。これにより取り外しが簡単になります。



転圧ローラーで収量アップ

発芽促進のためには鎮圧が重要です。地域によって品種は異なりますが、圃場にソルゴーやイタリアンライグラスの種をまき、肥料散布した後、ロータリーで覆土しながらローラーで鎮圧します。保水性を高め、発芽、生育に最適な土壌へと変えることによって、質の良い飼料作りへつなげます。今まで発芽できなかった小さな種もしっかり発芽するようになります。

もちろん、適期播種・適期刈り取りはとても重要です。地力の問題もありますが、ここでは以前と比べ量が約2割増加しました。



刈取機の刃の損傷も防ぐ

鎮圧することによって土壌が平らになり、収穫時に小石などを巻き込まず、刈取機モアの刃の損傷も防いでくれます。



あいであ & アイデア